



住民所蔵写真

井沢では、信仰と娯楽をかねた寄り合いとして、男女それぞれの山の神が年二回行われていた。  
男の山の神講の場合、当日会場当番にあたる家(団)に、参加者が米五合持参で集まり、全員が風呂に入ったのち、持参した米で餅を焼く。その後「山の神」の掛け軸を拝み、酒食の宴となる。  
そうしたたまった席にかきざし、人々は日常的に気かねなく訪ねあい、漬物や山菜等の大皿を前に「お茶っこ飲み」を楽しんだ。冬のウサギヤマ集団の時節の後は、男たちの鉄砲撃ち騒動でにぎやかな「酒っこ飲み」があった。



# 寄り合い語り合い

男たちのお茶っこ飲み。  
お茶っこ飲みは女たちだけのものではない。  
男たちのお茶っこでも山盛りの漬物と山菜の皿が並ぶ。



ハの地診療所及所日老生福は

